

発問の再検討

発問とは何か

日本国語教育学会編『国語教育事典』には、発問について以下のようにあります。

授業用語の一つ。子どもの知的開発を目的として発せられる教師からの問いあるいは問題である。その良否は授業の成否を大きく左右する。『質問』はわからないことを問うが、『発問』は教師が既にわかっていることを問い、子どもの思考活動を促すものである。

どの教科においても、教師の発問で授業がスタートします。教師の発問の仕方にも個性があり、用いる言葉の選択、問いかけるときの表情、児童・生徒の反応の受け止め方などに教師の人柄が出ます。児童・生徒がその人柄を受け入れ、なおかつ安心して学習を進められるよう、わかりやすく、学習の見通しがもてる発問の在り方を考えなければなりません。

わかりやすく学習の見通しがもてる発問

活発に学習を進める発問を組み立てるために、以下のことを考えていきます。

(1) 子どもを理解し、信じて励ます発問づくり

発問の内容が、クラス全員に的確に伝わり、解決できる自信と意欲を子どもにもたせることが重要です。納得できる答えに満足し、学習の継続に喜びを表現したり、個別の支援に笑顔で応えたりする子どもの存在が、確かな授業風景になります。

(2) 学習目標の達成には意図的・継続的な発問を

単元目標に向かって発問計画を設定し、毎時間の課題に沿ってわかりやすい言葉で発問します。昨日の学習の理解が今日の学習の起点となって子どもの思考を継続して促し、本時の発問を解決する活力となります。発問してから子どもが考える時間を保つよう心がけるようにします。そして、机間指導で個別に支援してから回答を待ちます。

(3) 確かさ・豊かさ・意見を求める発問の違い

○ 確かさを求める発問

叙述の内容と事実関係を明らかにし、最も基本的で客観的な内容の理解を確かめます。

(例)・登場人物はだれとだれですか。

○ 豊かさを求める発問

事実関係が明らかになったら、その事柄をもとに想像しながら、さらに読み深めます。自分の経験を思い起こしたり、予想したりしながら、想像する楽しみを学習させます。

(例)・主人公が言いたかったことを書きましょう。

○ 意見を求める発問

確かさや豊かさの読み取りをもとに、問題意識をもって意見や考えを発信させます。自分の考えをまとめ、読解できた喜びを自覚させます。

(例)・主人公の生き方で、あなたが最も感動したのはどの場面ですか。その理由も考えて文章にまとめましょう。

(4) 単元として構成する発問

発問は、常に一問多答でなければなりません。一つの発問により多くの子どもが応答できることが望ましい姿です。初めの発問は、全員が応えられるよう事実を確かめる易しい発問から始めます。次に、登場人物の心情や人間関係、情景描写の意味づけを思考する少し難しい発問へと進めます。さらに、想像や思考を必要とする発問へと高めていきます。